

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

できなくなりました。なぜなら、どのような強固な土台でも大自然の脅威の前では無力だという現実を知ったからです。しかし、震災後に悲しみや苦難を抱えつつ新たな一步を踏み出す人たちの姿に接したとき、目に見える土台が壊されたとしても、その人が心に抱く想いがその人を再び立ち上がらせてくれる力となることを知り、この聖書の言葉は人間が内面に持っている真の力の大切さをこそ指し示しているのではないかと考えるようになりました。みなさんも「目に見えない土台を大切に」してください。

【2019年度春期キリスト教教育強調週間の案内】

次週の大学礼拝は、2019年度春期キリスト教教育強調週間です。

日時：2019年5月28日（火）10時40分

聖書：マタイによる福音書5章9節、13-16節

主題：「私にできること、あなたにできること

——ボランティア活動を考える」

講師：南 佳子先生

みなみ動物病院副院長。元酪農学園大学獣医学部教授。獣医学博士。NPO北海道ボランティアドッグの会理事。日本基督教団栗山教会会員。専門は臨床動物行動学。

讃美歌：424番（讃美歌21）、510番（讃美歌21）

南先生は本学出身のクリスチャンの獣医師・獣医学者です。先生がライフワークとして続けてこられたセラピードッグと一緒に施設、病院、学校を訪問する活動などについてお話ししていただきます。先生が大切にしている「ワンズ」との生活の楽しさやボランティアの大切さを知る機会にしたいと思います。学生、教職員のみなさんのご出席をお待ちしています。

また、礼拝後に講堂2階の集会室で南先生を囲んで茶話会を行います。学生のみなさんはもちろんのこと、先生と久しぶりにお会いする教職員のみなさんも、礼拝と茶話会と併せてご出席ください。

【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では、学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。どなたでも参加できます。毎週礼拝後にオルガン前で練習をします。後学期には、クリスマス・コンサートもありますので、積極的にご参加ください。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しください。

【前回の大学礼拝】2019年5月14日（火）

学生 419名 教職員ほか 9名 合計 428名

【大学礼拝週報】 2019年度 第5号（前学期第5号）

2019年5月21日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 小林昭博（宗教主任）
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「勝利なる君、ほまれなる王」（ボルンゲッサー作曲）

讃美歌 讃美歌第二編 164番（勝利をのぞみ）

聖 書 ルカによる福音書6章46-49節

祈 り

さん び

酪農学園大学聖歌隊

奨 励

「目に見えない土台を大切に」

小林昭博（宗教主任）

報 告

讃美歌 讃美歌21 403番（聞けよ、愛と真理の）

後 奏 「麗しき門を開きたまえ」（ヘンニヒ作曲）

【本日の聖書】ルカによる福音書6章46-49節

46「わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。47わたしのもとに来て、わたしの言葉を聞き、それを行う人が皆、どんな人に似ているかを示そう。48それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。49しかし、聞いても行わない者は、土台なしで地面に家を建てた人に似ている。川の水が押し寄せると、家はたちまち倒れ、その壊れ方がひどかった。」

【奨励】

本日の聖書テキストは決して壊されることのない土台を作ることの大切さを伝えていきますので、学問や人間力の基礎を作ることの重要性を伝える言葉として頻りに読まれてきました。かつてはわたしもそのようにこの聖書の言葉を紹介してきたのですが、2011年3月11日の東日本大震災の津波の被害を知ってからは、同じようにこの聖書の言葉を読み解くことが